

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2017年9月2日～2017年9月8日の推移】

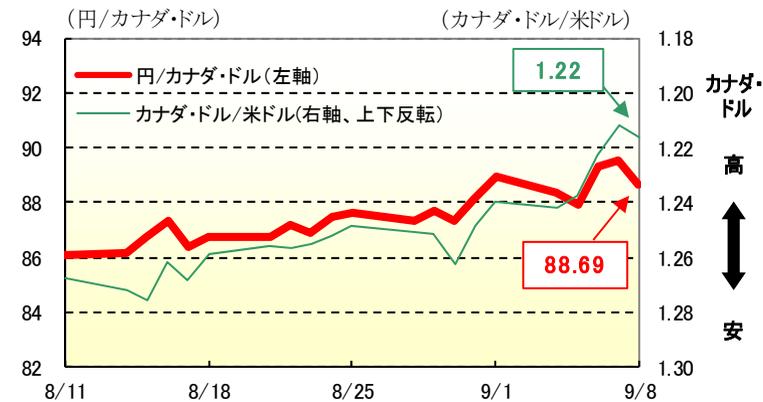
【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円はほぼ横ばいとなり、カナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、カナダ銀行(中央銀行)が市場予想に反して政策金利(翌日物金利の誘導目標)を0.25%ポイント引き上げて1.00%としたことなどが、カナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力となりました。

カナダ銀行は声明文で、「想定よりも強い経済成長により、現在の金融刺激策を解除することが適切である」と利上げの理由を説明しています。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年8月11日～2017年9月8日)



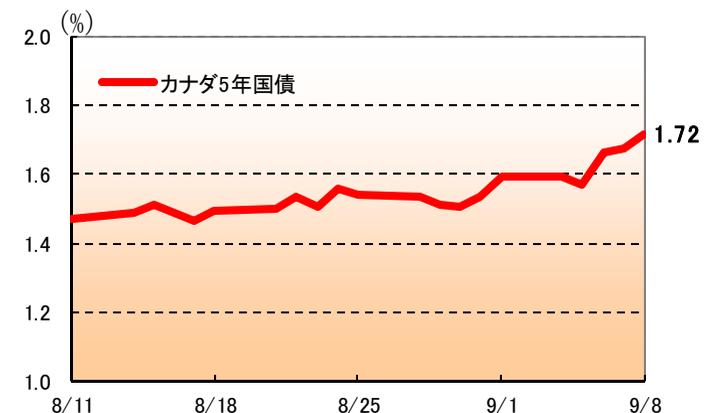
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週は、カナダ独自の材料は乏しく、米国で発表されるCPI(消費者物価指数)に注目が集まると考えています。当該指標が市場予想を上回る結果となれば、米国金利の上昇が見込まれ、それに連れてカナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力が高まるとみられています。

一方で、北朝鮮問題など地政学リスクが意識される局面では、市場のリスク回避的な姿勢が強まり、金利低下や円高カナダ・ドル安が進むと考えられます。

【カナダ 金利推移】 (2017年8月11日～2017年9月8日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>